

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572609246号
法人名	カフキガイシャ 株式会社 えがお
事業所名	ジグウジ えがお神宮寺
所在地	大仙市神宮寺字上栗谷田67-5 (電話) 0187-72-4660
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年12月3日

【情報提供票より】 (平成21年11月11日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 (常勤 13 人 非常勤 5 人 常勤換算 16.2 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	18,400 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低 70 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	J A秋田厚生連仙北組合総合病院、神岡歯科診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「地域と共に」を理念として掲げ、「地域でともに暮らす喜びを求めて」をモットーに、ユニット毎に職員間で話し合った年度目標を定め、地域の中でその人らしい生活を送れるよう支援している。
 法人代表及び管理者は理念の実現をめざして自信を持って事業所運営及びサービス提供に努め、職員も自分自身が利用したい事業所と考え、楽しみながらケアに臨んでおり、職員の年代によって孫や娘のような信頼関係を築いている。
 また、法人で系列事業所全体の家族会を組織して交流の機会を設けたり、広報委員会を組織して地域向けの広報誌を利用者と共に全戸配布しているほか、「月刊えがお」を地域包括支援センターなど関係機関に配信し、家族にもユニット毎のたよりや広報誌を送付するなど、地域に開かれた事業所として情報提供に努めている。
 さらには、職員の育成に力を入れ、法人内に組織する教育委員会で職員の目標や希望に応じて年間研修計画を作成しているほか、他事業所との交流を通じて実践を学び、職員のスキルアップとともにサービスの向上につなげている。
 なお、外部評価結果を生かして具体的な取り組みにつなげ、向上への前向きな意欲が感じられるため、今後も貪欲に取り組み、地域密着型サービスとしての機能充実に努めてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果を基に改善計画シートを作成し、行政との関わりや家族の意見集約、研修計画の作成や同業者との交流によるスキルアップ、適切な栄養管理など、優先順位に沿って積極的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価をケアの質を見直す機会と捉え、ユニット毎に職員一人ひとりが自己評価に取り組み、管理者が取りまとめた結果を職員間で話し合いのうえ共有している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では活動報告や現状報告のほか、評価結果や改善計画についても提起し、自主防災組織や緊急連絡網について討議するなど、地域の理解と協力を得ながら具体的な改善につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱のほか、系列事業所全体の家族会での意見集約、無記名式の家族アンケートなどにより家族の意見や不満、苦情などの把握に努めており、実習生の受入れなどの周知徹底や「たより」の確実な送付など実際の運営に生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と共に地域の清掃活動や近隣小中学校の運動会などに参加し、町内会青年部に職員が加入して「ぼんでん」など行事の準備から携っている。 また、地域向けの広報誌を全戸に訪問配布し、児童館の鍵を任せられるなど地域の一員として信頼関係を深めている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	「地域と共に」という基本理念のもと、その人らしく普通の生活が送れるよう、また、住み慣れた地域で地域の一員として安心して暮らせるように努めている。町内会へ入会し、地域の一員として行うべきことは当たり前に行うことを心がけ地域に根ざしたホームを目指している。	○	今後も、全職員が理念を熟知し、理念に基づく運営ができるように、研修会やカンファレンスを継続していく。	「地域と共に」との理念のもと、ユニット毎に職員間で話し合っって決めたケア目標を掲げ、地域の中でその人らしい生活が送れるよう実践に努めている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に」という基本理念のもと、その人らしく普通の生活が送れるよう、また、住み慣れた地域で地域の一員として安心して暮らせるように努めている。町内会へ入会し、地域の一員として行うべきことは当たり前に行うことを心がけ地域に根ざしたホームを目指している。	○	今後も、全職員が理念を熟知し、理念に基づく運営ができるように、研修会やカンファレンスを継続していく。			
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	採用時研修に、運営理念についての研修を設定している。また、理念を再確認できるように研修会を開催したり、個人やユニット毎の目標設定の際にも、理念をベースに目標を設定するよう意識的に取組んでいる。しかし、職員の理解度に格差がありまだ十分とは言えない。	○	今後も、研修会の開催や、目標設定時に理念を再確認できるような取り組みをしていく。	職員採用時の研修で理念についての理解を深め、玄関や事務所に掲示して、職員の意識化に努めている。 また、ユニット毎のケア目標を達成するために職員の個人目標を設定し、実現に向けて取り組んでいる。		
		運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時研修に、運営理念についての研修を設定している。また、理念を再確認できるように研修会を開催したり、個人やユニット毎の目標設定の際にも、理念をベースに目標を設定するよう意識的に取組んでいる。しかし、職員の理解度に格差がありまだ十分とは言えない。	○	今後も、研修会の開催や、目標設定時に理念を再確認できるような取り組みをしていく。			
3	3	○家族や地域への理念の浸透	ご家族には入居時に理念を説明し、入居後も「えがおたより」の送信や家族会の開催等で伝えている。また、地域の方には、広報誌を発行したり、地域公開講座を開催するなどしている。町内会の総会や行事に積極的に参加し、利用者様・職員が地域の方と交流する機会を多く持てるようにしている。	○	継続的な取り組みが必要であり、わかりやすく興味を持っていただけるような取り組みを今後も工夫をしていきたい。			
		事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には入居時に理念を説明し、入居後も「えがおたより」の送信や家族会の開催等で伝えている。また、地域の方には、広報誌を発行したり、地域公開講座を開催するなどしている。町内会の総会や行事に積極的に参加し、利用者様・職員が地域の方と交流する機会を多く持てるようにしている。	○	継続的な取り組みが必要であり、わかりやすく興味を持			
2. 地域との支えあい								
4	4	○隣近所とのつきあい	地域の行事時や散歩時にご近所の方と会話やあいさつをしたり、立ち寄っていただけるようお声掛けはしている。時折、自家栽培の野菜を届けていただいたりもする。事業所の外での関わりは増えており、関係も深まっているが、気軽に立ち寄ってくれる方はなかなかいない。	○	今後も、継続的な取り組みが必要であり、散歩時や町内行事参加時に、ご近所さんと積極的に関わりを持っていきたい。			
		管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事時や散歩時にご近所の方と会話やあいさつをしたり、立ち寄っていただけるようお声掛けはしている。時折、自家栽培の野菜を届けていただいたりもする。事業所の外での関わりは増えており、関係も深まっているが、気軽に立ち寄ってくれる方はなかなかいない。	○	今後も、継続的な取り組みが必要であり、散歩時や町内			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内の総会や行事には、参加している。町内行事時は、準備の段階から職員を参加させてもらい、地域の一員として町内の方との交流を大事にしている。小中学校との交流もある。また、常時、誰かが事業所にいるため、児童館の鍵を管理させてもらっている。	○	えがお神宮寺が地域の方々に「地域の一員」としてもっと認めていただけるように、地域住民としての役割を果たしながら、今後も積極的に関わりを持っていきたい。	職員と利用者が町内会に加入し、地域の清掃活動や小中学校の運動会などに参加しているほか、男性職員が青年部に所属して「ぼんでん」などお祭り行事には準備段階から関わっている。 また、地域向けの広報誌を全戸訪問のうえ配布し、24時間対応が可能との理由で児童館の鍵を預るなど信頼を得ている。		
			町内会に入会し、町内の総会や行事には、参加している。町内行事時は、準備の段階から職員を参加させてもらい、地域の一員として町内の方との交流を大事にしている。小中学校との交流もある。また、常時、誰かが事業所にいるため、児童館の鍵を管理させてもらっている。	○	えがお神宮寺が地域の方々に「地域の一員」としてもっと認めていただけるように、地域住民としての役割を果たしながら、今後も積極的に関わりを持っていきたい。			
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーター養成講座を開催したり、地域向け広報誌や地域の運営推進会議の委員の方を通じて地域で認知症介護等で困っている方がいる時には、気軽に相談していただけるように伝えている。しかし、実際はそのような相談が寄せられることは少ない。	○	地域の児童館を利用して介護予防や閉じこもり予防につながるような取り組みをしたいと考えている。その場で「よろず相談」的な、関わりがもてるようになりたい。	/		
			認知症サポーター養成講座を開催したり、地域向け広報誌や地域の運営推進会議の委員の方を通じて地域で認知症介護等で困っている方がいる時には、気軽に相談していただけるように伝えている。しかし、実際はそのような相談が寄せられることは少ない。	○	地域の児童館を利用して介護予防や閉じこもり予防につながるような取り組みをしたいと考えている。その場で「よろず相談」的な、関わりがもてるようになりたい。			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を行ったうえで、ユニットの自己評価を作成している。自己評価や外部評価を実施する意義について、研修会を開催し意識統一を図っていた。また、評価を活かした取り組みが出来るようにカンファレンスを開催し、改善策を話し合い実践するようにしている。しかし、年数の浅い職員は、十分に理解できているとは言えない。	○	自己評価や外部評価の実施は、評価を活かしてサービスの質を向上させていく目的がある事を特に新人や年数の浅い職員にも理解できるように解りやすく説明できるようにしていきたい。	職員は評価の意義や目的を理解し、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、ユニット毎にまとめたうえで職員間で共有している。 また、前回評価結果を受けて改善計画シートを作成し、優先順位に沿って課題解決に向けて取り組んでいる。		
			職員一人ひとりが自己評価を行ったうえで、ユニットの自己評価を作成している。自己評価や外部評価を実施する意義について、研修会を開催し意識統一を図っていた。また、評価を活かした取り組みが出来るようにカンファレンスを開催し、改善策を話し合い実践するようにしている。しかし、年数の浅い職員は、十分に理解できているとは言えない。	○	自己評価や外部評価の実施は、評価を活かしてサービスの質を向上させていく目的がある事を特に新人や年数の浅い職員にも理解できるように解りやすく説明できるようにしていきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いは貴重な意見と捉え、会議の内容や意見として上がった事は、全職員に周知するようにしている。そして、ご意見やご提案いただいた事を職員間で話し合いサービスに活かすように努めている。	○	運営推進会議以外で、第三者や外部の方から意見をいただく機会はそれほど多くないため、今後も運営推進会議であがった意見を大事にし、サービスに活かしていきたい。また、もっとご意見をいただけるように会議の進め方なども工夫していきたい。	運営推進会議ではサービス実施状況などを報告し、評価結果や改善計画について意見を求めながら、具体的な改善につなげている。 また、会議を通じて町内会青年部に緊急災害時の対応について要望するなど、地域の理解と協力を得るための場としても機能している。		
			運営推進会議での話し合いは貴重な意見と捉え、会議の内容や意見として上がった事は、全職員に周知するようにしている。そして、ご意見やご提案いただいた事を職員間で話し合いサービスに活かすように努めている。	○	運営推進会議以外で、第三者や外部の方から意見をいただく機会はそれほど多くないため、今後も運営推進会議であがった意見を大事にし、サービスに活かしていきたい。また、もっとご意見をいただけるように会議の進め方なども工夫していきたい。			
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス情報提供と研修情報をあわせた「月間えがお」を毎月配信している。介護保険事務所や福祉事務所、包括支援センターとは必要時連絡をとり、できるかぎり窓口に向いて関わりを持てるようにしている。行政主催の研修会には可能なかぎり参加するようにしている。また、地域包括支援センターとは、認知症サポーター養成講座の委託があり協働している。	○	できるかぎり行政機関と関わりを持つよう心掛けているが、今後も密な関わりを継続し、事業所の質の向上につなげていきたい。	生活保護や成年後見制度利用者がおり、介護保険事務所や福祉事務所、地域包括支援センターと連携しながら支援している。 また、地域包括支援センターからの委託で法人職員が講師として認知症サポーター養成講座を開催しているほか、法人の広報「月刊えがお」を毎月届けるなど、定期的に出向いて関わりを持つよう努めている。		
			サービス情報提供と研修情報をあわせた「月間えがお」を毎月配信している。介護保険事務所や福祉事務所、包括支援センターとは必要時連絡をとり、できるかぎり窓口に向いて関わりを持てるようにしている。行政主催の研修会には可能なかぎり参加するようにしている。また、地域包括支援センターとは、認知症サポーター養成講座の委託があり協働している。	○	できるかぎり行政機関と関わりを持つよう心掛けているが、今後も密な関わりを継続し、事業所の質の向上につなげていきたい。			
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の意識統一の為、権利擁護について外部から講師を招き研修会を開催したりしている。ご家族からの要請があり、成年後見制度手続きに必要な一部書類作成等の援助はしたことがある。	○	権利擁護事業や成年後見制度の利用が必要な方はいないか随時確認し、必要な方には援助が受けられるように支援していきたい。			
			職員の意識統一の為、権利擁護について外部から講師を招き研修会を開催したりしている。ご家族からの要請があり、成年後見制度手続きに必要な一部書類作成等の援助はしたことがある。	○	権利擁護事業や成年後見制度の利用が必要な方はいないか随時確認し、必要な方には援助が受けられるように支援していきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度は高齢者虐待について、また職員のメンタルヘルスケアについても研修会を開催している。管理者は、高齢者虐待防止教育システムの講師養成研修会（外部研修）にも参加し、職員向けに研修会を計画している。また、職員の言動や利用者様の言動・表情から不適切ケアや虐待が行われていないか日常的に確認している。	○	高齢者虐待がおこりうる状況を未然に防げるように、不適切ケアへの早期発見・早期対応と、職員のストレスマネジメントに継続的に取り組んでいきたい。また、ご家族に対しても虐待につながらない介護の仕方等について、アドバイスや情報提供ができるように援助していきたい。				
		年に一度は高齢者虐待について、また職員のメンタルヘルスケアについても研修会を開催している。管理者は、高齢者虐待防止教育システムの講師養成研修会（外部研修）にも参加し、職員向けに研修会を計画している。また、職員の言動や利用者様の言動・表情から不適切ケアや虐待が行われていないか日常的に確認している。	○	高齢者虐待がおこりうる状況を未然に防げるように、不適切ケアへの早期発見・早期対応と、職員のストレスマネジメントに継続的に取り組んでいきたい。また、ご家族に対しても虐待につながらない介護の仕方等について、アドバイスや情報提供ができるように援助していきたい。				
4. 理念を実践するための体制								
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、説明し同意を得ている。利用者様やご家族の不安や疑問に対しては、理解・納得していただけるように説明する努力を行っている。ご本人に対しては認知・理解力の問題から、全てを説明することは難しい場合もあり、ご本人の状態にあわせ困惑しないように説明することを心掛けている。	○	今後も、ご本人・ご家族にこちらの説明の仕方でも理解していただけているか各項目毎に確認しながら説明をしていきたい。				
		契約書や重要事項説明書に基づき、説明し同意を得ている。利用者様やご家族の不安や疑問に対しては、理解・納得していただけるように説明する努力を行っている。ご本人に対しては認知・理解力の問題から、全てを説明することは難しい場合もあり、ご本人の状態にあわせ困惑しないように説明することを心掛けている。	○	今後も、ご本人・ご家族にこちらの説明の仕方でも理解していただけているか各項目毎に確認しながら説明をしていきたい。				
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や思いを遠慮なく言っていただけるような関係作りを心がけている。また、日々の関わりから、思いを汲み取るようにしている。利用者様同士で話し合いする機会（会議）を設定し、ケアや生活についての希望等も聞くようにしている。また、ご意見・ご要望に対しては、速やかに対応策を講じるようカンファレンスを開催している。しかし、外部者に表出させる機会の設定等は、十分に行えていない。	○	今後も、遠慮なく意見・不満・苦情等を言っていただけるように日常的な会話の中で聴き取りをしていきたい。ご家族を通じてや、また外部者にも伝えられる仕組みを確立していけるように検討していきたい。				
		ご意見箱の設置や思いを遠慮なく言っていただけるような関係作りを心がけている。また、日々の関わりから、思いを汲み取るようにしている。利用者様同士で話し合いする機会（会議）を設定し、ケアや生活についての希望等も聞くようにしている。また、ご意見・ご要望に対しては、速やかに対応策を講じるようカンファレンスを開催している。しかし、外部者に表出させる機会の設定等は、十分に行えていない。	○	今後も、遠慮なく意見・不満・苦情等を言っていただけるように日常的な会話の中で聴き取りをしていきたい。ご家族を通じてや、また外部者にも伝えられる仕組みを確立していけるように検討していきたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	状態変化時・受診時・ケア方針の希望確認時等は、随時必要な時にご家族と連絡をとっている。また、毎月ホーム通信「えがおたより」の配信や写真をご家族に提供したり、面会時に暮らしぶりを報告している。金銭管理については、面会時にお小遣い帳を確認してもらっている。	○	遠方にお住まいの方など、面会が少ないご家族に対しても十分にご本人の様子をお伝えできるように、お手紙や電話等で定期的にまた頻度を増やして報告が行えるようにしていきたい。	法人で広報委員会を組織しており、ユニット毎に「えがおだより」を毎月発行し、利用者一人ひとりの生活の様子を手紙を添えて伝えている。 また、広報「えがお神宮寺」で行事や職員紹介など事業所の動向を知らせており、金銭管理を含めて面会時にも状況を報告している。		
			状態変化時・受診時・ケア方針の希望確認時等は、随時必要な時にご家族と連絡をとっている。また、毎月ホーム通信「えがおたより」の配信や写真をご家族に提供したり、面会時に暮らしぶりを報告している。金銭管理については、面会時にお小遣い帳を確認してもらっている。	○	遠方にお住まいの方など、面会が少ないご家族に対しても十分にご本人の様子をお伝えできるように、お手紙や電話等で定期的にまた頻度を増やして報告が行えるようにしていきたい。			
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内の受け窓口や公的機関への連絡先を利用契約書や重要事項説明書に記しており、入居時に説明している。また、館内にご意見箱を設置したり、ご家族にアンケートを実施。アンケートの結果をもとに、現在改善に向けた取り組みを検討中である。苦情や要望等があった場合は、ご家族に確認をとりながら速やかに対応策を講じている。しかし、意見・不満・苦情を遠慮なく言っていただけるような取り組みについては今後も検討が必要。	○	遠慮なく意見・不満・苦情等を言っていただけるような関係作りと、アンケート等にて明らかになった課題を職員一同で改善に向けて取り組んでいきたい。	玄関に意見箱を設置しているほか、家族に対して無記名式のアンケートを実施するなど、前回評価から具体的な取り組みにより意見の集約に努めている。 また、法人全体で系列事業所の家族会を組織しており、開催時に話を聴き、面会時にも重要な情報を得る機会と捉えている。		
			事業所内の受け窓口や公的機関への連絡先を利用契約書や重要事項説明書に記しており、入居時に説明している。また、館内にご意見箱を設置したり、ご家族にアンケートを実施。アンケートの結果をもとに、現在改善に向けた取り組みを検討中である。苦情や要望等があった場合は、ご家族に確認をとりながら速やかに対応策を講じている。しかし、意見・不満・苦情を遠慮なく言っていただけるような取り組みについては今後も検討が必要。	○	遠慮なく意見・不満・苦情等を言っていただけるような関係作りと、アンケート等にて明らかになった課題を職員一同で改善に向けて取り組んでいきたい。			
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週開催する管理者会議や、ユニットカンファレンス等にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、運営者や総合施設長は、週に1度以上は来訪し、管理者と意見交換する時間を設けている。	○	今後も、職員の意見や考えを確認し、質の向上につなげていきたい。			
			毎週開催する管理者会議や、ユニットカンファレンス等にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、運営者や総合施設長は、週に1度以上は来訪し、管理者と意見交換する時間を設けている。	○	今後も、職員の意見や考えを確認し、質の向上につなげていきたい。			
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や受診援助、また、利用者様の状態に応じて勤務の調整を行っている。また、業務内容も必要に応じて変更している。	○	利用者様を優先に考えた勤務調整は行っているが、職員の負担も考えながら、今後も、必要な時間に必要人数の職員が確保できるように調整していきたい。			
			行事や受診援助、また、利用者様の状態に応じて勤務の調整を行っている。また、業務内容も必要に応じて変更している。	○	利用者様を優先に考えた勤務調整は行っているが、職員の負担も考えながら、今後も、必要な時間に必要人数の職員が確保できるように調整していきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様やご家族に影響を与える事を考慮し、できるかぎり人事異動は行わない方針ではあるが、異動や離職により職員が変わる場合は、新人職員に対して、研修の実施やOJTにて利用者様への影響が最小限に抑えられるよう教育している。離職につながらない職員の労働条件の配慮等は今後も検討が必要。	○	今後も、職員教育を十分に行い、ご本人やご家族への影響が最小限となるようにしていきたい。離職につながらない、職員の労働条件等の配慮は継続的に検討していきたい。			
			利用者様やご家族に影響を与える事を考慮し、できるかぎり人事異動は行わない方針ではあるが、異動や離職により職員が変わる場合は、新人職員に対して、研修の実施やOJTにて利用者様への影響が最小限に抑えられるよう教育している。離職につながらない職員の労働条件の配慮等は今後も検討が必要。	○	今後も、職員教育を十分に行い、ご本人やご家族への影響が最小限となるようにしていきたい。離職につながらない、職員の労働条件等の配慮は継続的に検討していきたい。			
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員採用時は、カリキュラムに基づき研修を行っている。プリセプター制にて、新人職員を教育するシステムをとっている。また、全職員に対しての内部研修は教育委員会を組織し、年間計画に基づき毎月研修会を開催。個人の目標に応じて選択して受けられるようにしている。また、外部から専門的分野の講師を招き研修会を開催している。外部研修は、職員の能力・希望、目標に応じ研修計画をたてて参加させている。	○	今後も、職員の能力や希望・目標に応じ研修計画をたてていきたい。			職員一人ひとりの目標を半年毎に設定し、それを評価しながら次回の目標を設定しており、組織として職員の目標管理と育成に努めている。 また、毎月の目標も掲げ、個人目標に基づいて研修を受講するなど段階的なスキルアップにつながる仕組みを構築している。 さらには、新任職員への教育にも力を傾注しており、管理者や職員が講師となり、中央講師を招くなどしながら内部研修の充実と質の向上につなげている。
			職員採用時は、カリキュラムに基づき研修を行っている。プリセプター制にて、新人職員を教育するシステムをとっている。また、全職員に対しての内部研修は教育委員会を組織し、年間計画に基づき毎月研修会を開催。個人の目標に応じて選択して受けられるようにしている。また、外部から専門的分野の講師を招き研修会を開催している。外部研修は、職員の能力・希望、目標に応じ研修計画をたてて参加させている。	○	今後も、職員の能力や希望・目標に応じ研修計画をたてていきたい。			
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は県や大曲仙北地域のグループホーム連絡会の役員をし、総合施設長も大曲仙北のグループホーム連絡会の役員をしている。事業所としては全国・県・大曲仙北のGH協会へ入会し、研修会への参加や同業者との交流・情報交換、相互交換研修会等を行っている。また、管理者は、認知症介護指導者養成研修を修了しており、県外の指導者との情報交換も行っている。	○	今後も、ネットワークを広げ情報交換を行い、よりよいサービスの提供を目指したい。			全国・県・圏域の連絡協議会に加入し、法人代表と総合施設長が役員として活動しているほか、管理者が認知症介護指導者として他事業所及び勉強会などで貢献したいと意欲的である。 また、他事業所職員との交換研修など交流機会の確保に努めており、サービスの向上につなげている。
			運営者は県や大曲仙北地域のグループホーム連絡会の役員をし、総合施設長も大曲仙北のグループホーム連絡会の役員をしている。事業所としては全国・県・大曲仙北のGH協会へ入会し、研修会への参加や同業者との交流・情報交換、相互交換研修会等を行っている。また、管理者は、認知症介護指導者養成研修を修了しており、県外の指導者との情報交換も行っている。	○	今後も、ネットワークを広げ情報交換を行い、よりよいサービスの提供を目指したい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員へメンタルヘルスキアの研修会を開催したり、アンケートでストレスの状態を把握しストレス軽減に努めている。定期的に個別面談を行う際には悩みやストレスについても確認をしている。また、職員の親睦会もあり、年に数回、行事を企画している。しかし、勤務中の休憩時間の確保が難しく現場から離れて十分に休憩をとれていない。	○	今後も、勉強会の開催や個別面談、アンケート等にて悩みやストレスの確認を行っていききたい。また、改善に向けて業務内容の見直しや休憩時間をできる限り確保できるように検討していききたい。				
		職員へメンタルヘルスキアの研修会を開催したり、アンケートでストレスの状態を把握しストレス軽減に努めている。定期的に個別面談を行う際には悩みやストレスについても確認をしている。また、職員の親睦会もあり、年に数回、行事を企画している。しかし、勤務中の休憩時間の確保が難しく現場から離れて十分に休憩をとれていない。	○	今後も、勉強会の開催や個別面談、アンケート等にて悩みやストレスの確認を行っていききたい。また、改善に向けて業務内容の見直しや休憩時間をできる限り確保できるように検討していききたい。				
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の目標を6ヶ月毎に設定し、目標達成にむけて向上心を持って取組めるように必要な研修への参加促しや、読書手当の支給等を行っている。毎年、社内事例研究発表の開催や月2回の社内研修会の設定にて、学べる環境の整備はしている。	○	職員のモチベーションを保つために必要な事は何か今後も、職員への聴き取り等により、把握していききたい。				
		個人の目標を6ヶ月毎に設定し、目標達成にむけて向上心を持って取組めるように必要な研修への参加促しや、読書手当の支給等を行っている。毎年、社内事例研究発表の開催や月2回の社内研修会の設定にて、学べる環境の整備はしている。	○	職員のモチベーションを保つために必要な事は何か今後も、職員への聴き取り等により、把握していききたい。				
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込み後、ご本人と面談し希望を聴取している。その後は、電話でのやりとりがほとんどである。相談から利用までの間に、期間が十分にある場合は、何度かお会いする事もあるが、たいていは一回しか面談できておらず十分とは言えないのかもしれない。	○	個々人の状態や状況にあわせ、面談の回数等も増やし信頼関係を築いていききたい。				
		利用申し込み後、ご本人と面談し希望を聴取している。その後は、電話でのやりとりがほとんどである。相談から利用までの間に、期間が十分にある場合は、何度かお会いする事もあるが、たいていは一回しか面談できておらず十分とは言えないのかもしれない。	○	個々人の状態や状況にあわせ、面談の回数等も増やし信頼関係を築いていききたい。				
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から希望を聴取し、入居までの間に何度か連絡を取り合うように努め、できるかぎりご家族に不安がない状態で入居していただけるように努力している。しかし、利用者様の状況やご家族の都合により、その頻度に違いはある。	○	個々人の状態や状況にあわせ、こまめに希望等の確認をしていくことで、信頼関係を築いていききたい。				
		ご家族から希望を聴取し、入居までの間に何度か連絡を取り合うように努め、できるかぎりご家族に不安がない状態で入居していただけるように努力している。しかし、利用者様の状況やご家族の都合により、その頻度に違いはある。	○	個々人の状態や状況にあわせ、こまめに希望等の確認をしていくことで、信頼関係を築いていききたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を利用できるように、また、選択肢が広がるように、希望や利用者様の状況に応じて、他のサービス内容について説明や紹介をしている。担当ケアマネジャーとの連携も密に行うように努めている。	○	より適切な対応が出来るように、他サービスについて特徴やサービス内容の理解を深めていきたい。			
	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得した上で入居していただけるように、ご本人の状況に応じて、入居前にお茶を飲みに来ていただいたり、試験的に泊まりをしていただくような対応をしている。ご本人ができる限り違和感なく馴染めるように、ご本人が好む関わり方等を、ご家族から伺いながら実践している。しかし、場合によっては、入居を急いでいる方もおり、十分にできない場合もある。	○	安心し、納得された上で入居していただけるように、今後も個々人の状況に応じて、必要な援助をしていきたい。ご家族には、その必要性を説明し理解していただけるように取組んでいきたい。			
	26		ご本人が納得した上で入居していただけるように、ご本人の状況に応じて、入居前にお茶を飲みに来ていただいたり、試験的に泊まりをしていただくような対応をしている。ご本人ができる限り違和感なく馴染めるように、ご本人が好む関わり方等を、ご家族から伺いながら実践している。しかし、場合によっては、入居を急いでいる方もおり、十分にできない場合もある。	○	安心し、納得された上で入居していただけるように、今後も個々人の状況に応じて、必要な援助をしていきたい。ご家族には、その必要性を説明し理解していただけるように取組んでいきたい。			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や畑作業、華道・書道等、利用者様に教えていただきながら、一緒に活動し生活するよう努めている。一方的なケアではなく、同じ家に住む者同士、共に支えあう関係を築けるように努めている。しかし、職員の意識や力量に格差があり、まだ十分にできていない。	○	今後も、一方的なケアではなく、「ケアされるケア、一緒にのケア」を実践していけるように、継続的に研修会やOJTにて、職員の意識統一やレベルアップを図りたい。			
	27		調理や畑作業、裁縫等、利用者様に教えていただきながら、一緒に活動し生活するよう努めている。一方的なケアではなく、同じ家に住む者同士、共に支えあう関係を築けるように努めている。しかし、職員の意識や力量に格差があり、まだ十分にできていない。	○	今後も、一方的なケアではなく、「ケアされるケア、一緒にのケア」を実践していけるように、継続的に研修会やOJTにて、職員の意識統一やレベルアップを図りたい。			
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担にならない程度に、外泊・外出・面会・電話等にて関わりが継続できるように援助している。しかし、ご家族も高齢だったり、遠方に住まれている等の都合によって、ご本人が望むご家族との関わりが十分にできていない方もいる。	○	ご家族が、自然な形でご本人に関わりが持てるように、ご家族の状況に応じた対応や、関わり方についてご家族にアドバイスできるように努めていく。直接面会できない方については、電話や手紙等にて連絡が取れるように援助していきたい。			
	28		ご家族の負担にならない程度に、外泊・外出・面会・電話等にて関わりが継続できるように援助している。しかし、ご家族も高齢だったり、遠方に住まれている等の都合によって、ご本人が望むご家族との関わりが十分にできていない方もいる。	○	ご家族が、自然な形でご本人に関わりが持てるように、ご家族の状況に応じた対応や、関わり方についてご家族にアドバイスできるように努めていく。直接面会できない方については、電話や手紙等にて連絡が取れるように援助していきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人・ご家族のこれまでの関係や心理を理解し、個々人の状況に合わせて、より良い関係が築けるように援助している。ご家族向けに、認知症の理解を深めるための研修会を開催している。また、ご家族の心理についての理解とご家族との関わりについてカンファレンスや研修会を行い、職員の意識統一を図るよう努めている。	○	ご本人やご家族がこれまでに築いてきた関係を理解し、関係の維持や関係の修復等の援助が行えるようにしていきたい。特定の職員だけでなく、全職員が出来るように意識統一とレベルアップを図っていきたい。			
			ご本人・ご家族のこれまでの関係や心理を理解し、個々人の状況に合わせて、より良い関係が築けるように援助している。ご家族向けに、認知症の理解を深めるための研修会を開催している。また、ご家族の心理についての理解とご家族との関わりについてカンファレンスや研修会を行い、職員の意識統一を図るよう努めている。	○	ご本人やご家族がこれまでに築いてきた関係を理解し、関係の維持や関係の修復等の援助が行えるようにしていきたい。特定の職員だけでなく、全職員が出来るように意識統一とレベルアップを図っていきたい。			
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントを行い馴染みの方との面会や思い出のある場所・馴染みの場所に出掛ける等の援助を行っている。しかし、遠方の場合には困難な場合もあり、ご家族とも協力して援助していけるように努めたい。	○	今後も、ご本人が大切にしてきた関わりを、継続していけるように、ご家族の協力も得ながら援助していきたい。また、折に触れご本人の望む関わりを確認していきたい。			
			アセスメントを行い馴染みの方との面会や思い出のある場所・馴染みの場所に出掛ける等の援助を行っている。しかし、遠方の場合には困難な場合もあり、ご家族とも協力して援助していけるように努めたい。	○	今後も、ご本人が大切にしてきた関わりを、継続していけるように、ご家族の協力も得ながら援助していきたい。また、折に触れご本人の望む関わりを確認していきたい。			
31	○利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が、お互いに協力し合い作業を行ったり、仲の良い方同士、散歩や買い物に出掛けたりされている。様々な人間関係があり、関わりを援助・仲介している。	○	個々人の性格や利用者様同士の人間関係、また認知症症状の度合いによって、他者から指摘や注意を受ける方もおり、適度に仲介が必要である。そのため、できるかぎり良好な関わりを保てるように職員にOJTしていく。			
			利用者様同士が、お互いに協力し合い作業を行ったり、仲の良い方同士、散歩や買い物に出掛けたりされている。様々な人間関係があり、関わりを援助・仲介している。	○	個々人の性格や利用者様同士の人間関係、また認知症症状の度合いによって、他者から指摘や注意を受ける方もおり、適度に仲介が必要である。そのため、できるかぎり良好な関わりを保てるように職員にOJTしていく。			
32	○関係を断ち切らない取り組み	サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後についても、いつでも気軽に相談していただけるように、ご家族にお伝えしている。退去先への情報提供や、ご家族の悩みを聞く等、できる限りのことは行っているが、十分にできているかは疑問である。	○	退去後も、継続的なケアを受け安心して生活できるように、今後も関係機関やご家族・ご本人との関わりを継続していきたい。			
			退去後についても、いつでも気軽に相談していただけるように、ご家族にお伝えしている。退去先への情報提供や、ご家族の悩みを聞く等、できる限りのことは行っているが、十分にできているかは疑問である。	○	退去後も、継続的なケアを受け安心して生活できるように、今後も関係機関やご家族・ご本人との関わりを継続していきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<p>アセスメントにセンター方式を取り入れている。ご本人に直接的に希望も聴くが、何気ない普段の会話の中での聴取やご家族からの情報収集、また、ご本人の言動を観察するなどし、ご本人の望む暮らしや意向の把握に努めている。また、利用者様同士での話し合いの場「家族会議」を開催し、行事等の計画をたてている。意思伝達がうまく出来ない方についても、ご本人の立場に立って把握するよう努めている。</p>	○	<p>入居者様とコミュニケーションを十分に図り、会話の中で意識的に希望を引き出しアセスメントできるようにまた、職員によって意識格差がないように今後も職員教育していく。</p>	<p>アセスメントにセンター方式を用いたことで利用者の詳細な情報収集が可能になり、その情報を踏まえて様々な場面での思いを感じ取っている。また、利用者同士で行事の行き先や食事の献立について話し合う場を設け、職員も利用者の輪の仲に溶け込みながら希望や意向を汲み取るよう努めている。</p>		
			<p>アセスメントにセンター方式を取り入れている。ご本人に直接的に希望も聴くが、何気ない普段の会話の中での聴取やご家族からの情報収集、また、ご本人の言動を観察するなどし、ご本人の望む暮らしや意向の把握に努めている。意思伝達がうまく出来ない方についても、ご本人の立場に立って把握するよう努めている。</p>	○	<p>入居者様とコミュニケーションを十分に図り、会話の中で意識的に希望を引き出しアセスメントできるようにまた、職員によって意識格差がないように今後も職員教育していく。</p>			
34	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<p>入居時に、ご本人やご家族から、これまでの暮らしについて聴取している。また、事前にご家族に記録用紙をお渡しして記入してもらっている。入居後は、随時必要な情報が聴けた時に、記録に追加している。</p>	○	<p>今後も、十分にアセスメントできるように聴取の工夫や、記録用紙の検討等を考えていきたい。また、職員のレベルアップのため継続的に研修会を開催していきたい。</p>			
			<p>入居時に、ご本人やご家族から、これまでの暮らしについて聴取している。また、事前にご家族に記録用紙をお渡しして記入してもらっている。入居後は、随時必要な情報が聴けた時に、記録に追加している。</p>	○	<p>今後も、十分にアセスメントできるように聴取の工夫や、記録用紙の検討等を考えていきたい。また、職員のレベルアップのため継続的に研修会を開催していきたい。</p>			
35	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<p>日々の過ごし方や、心身状態、ご本人の能力等、職員が情報を共有できるように記録に残し、総合的に把握するよう努めている。</p>	○	<p>一部の場面や状態だけではなく、その方の状態を総合的に把握できるように記録の整備等を再度検討していきたい。</p>			
			<p>日々の過ごし方や、心身状態、ご本人の能力等、職員が情報を共有できるように記録に残し、総合的に把握するよう努めている。</p>	○	<p>一部の場面や状態だけではなく、その方の状態を総合的に把握できるように記録の整備等を再度検討していきたい。</p>			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<p>ご本人やご家族の希望を聴取し、また、介護職員・医師・看護師等、関係者からの意見やアイデアをまとめて介護計画を作成するよう努めている。</p>	○	<p>今後も、個々人がより良く暮らしていけるよう、偏った判断や見方にならないよう、関係者からの意見やアイデアを十分に引き出し介護計画を作成していきたい。</p>	<p>センター方式のアセスメントにより利用者及び家族の意向を把握し、利用者が望む暮らし方を実現できるよう、カンファレンスで職員や協力医、看護師などの意見やアイデアを取り入れながら介護計画を作成している。</p>		
			<p>ご本人やご家族の希望を聴取し、また、介護職員・医師・看護師等、関係者からの意見やアイデアをまとめて介護計画を作成するよう努めている。</p>	○	<p>今後も、個々人がより良く暮らしていけるよう、偏った判断や見方にならないよう、関係者からの意見やアイデアを十分に引き出し介護計画を作成していきたい。</p>			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	37	○現状に即した介護計画の見直し	介護計画期間（3ヶ月）に応じた見直し、1ヶ月毎にモニタリングを行っている。また、見直し前でも状態に応じてケアの変更や追加は行っているが、期間前の計画書の作り直しは十分にできているとは言いがたい。	○	見直し時期前の計画書の作り直しも随時十分に行えるように努めていきたい。	毎月のモニタリングによる3か月ごとの見直しのほか、利用者の状態が一目で把握できるよう管理日誌の様式を工夫し、変化や気づきがあれば利用者及び家族と話し合いのうえ現状に即した計画に見直している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間（3ヶ月）に応じた見直し、1ヶ月毎にモニタリングを行っている。また、見直し前でも状態に応じてケアの変更や追加は行っているが、期間前の計画書の作り直しは十分にできているとは言いがたい。	○	見直し時期前の計画書の作り直しも随時十分に行えるように努めていきたい。			
38		○個別の記録と実践への反映	記録について外部の研修会に参加し、参加した職員が講師になり社内でも研修会を開催し記録の必要性・重要性について意識統一をはかっている。介護記録にケアの実践や気づき、ご本人からの訴えや言動等を、できる限り詳細に記録するように努め、職員が情報を共有できるようにしている。モニタリング時や介護計画の見直しに活かしている。	○	今後も、必要な情報をきちんと記録として残せるように、継続的に研修会を開催し職員のレベルアップを図っていきたい。			
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録について外部の研修会に参加し、参加した職員が講師になり社内でも研修会を開催し記録の必要性・重要性について意識統一をはかっている。介護記録にケアの実践や気づき、ご本人からの訴えや言動等を、できる限り詳細に記録するように努め、職員が情報を共有できるようにしている。モニタリング時や介護計画の見直しに活かしている。	○	今後も、必要な情報をきちんと記録として残せるように、継続的に研修会を開催し職員のレベルアップを図っていきたい。			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援	ご本人やご家族の心身の状態や要望を把握し、柔軟な対応が出来るように、勤務の調整を行い必要な時間帯に職員が確保できるように努めている。また、緊急的な受診や対応は管理者が行い、24時間対応可能な看護師を確保している。	○	今後も、要望を確認しながら、事業所でできる範囲以内のことは、援助できるように努めていきたい。	家族の同伴も含めて通院時には職員が付き添い、自宅へ衣類を取りに行くために送迎するなど柔軟に支援している。 また、法人本部の看護師による24時間対応を可能にし、希望に応じて事業所の宿泊体験も行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の心身の状態や要望を把握し、柔軟な対応が出来るように、勤務の調整を行い必要な時間帯に職員が確保できるように努めている。また、緊急的な受診や対応は管理者が行い、24時間対応可能な看護師を確保している。	○	今後も、要望を確認しながら、事業所でできる範囲以内のことは、援助できるように努めていきたい。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
40		○地域資源との協働	地域の幼稚園や小中学校との交流や、大正琴のボランティア、町内会との交流等、地域の方々の協力をもらっている。また、消防署には避難訓練時に立会いや救命講習会をしてもらっている。交番には利用者さんの一般的な特徴を説明し、何かあった場合に協力してもらえようようお願いしている。	○	今後も、地域の資源を上手に活用させていただき、利用者様が地域で安心して楽しく生活できるように支援していきたい。地域資源を把握できていない部分もあるため、様々な関わりを発掘していきたい。			
		本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域の幼稚園や小中学校との交流や、大正琴のボランティア、町内会との交流等、地域の方々の協力をもらっている。また、消防署には避難訓練時に立会いや救命講習会をしてもらっている。交番には利用者さんの一般的な特徴を説明し、何かあった場合に協力してもらえようようお願いしている。	○	今後も、地域の資源を上手に活用させていただき、利用者様が地域で安心して楽しく生活できるように支援していきたい。地域資源を把握できていない部分もあるため、様々な関わりを発掘していきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス希望時は、関係者と連携をとりご本人の意向に沿って支援している。	○	今後も、意向を確認しながら、ご本人が望む生活ができるように関係者と連絡調整を行っていききたい。				
		他のサービス希望時は、関係者と連携をとりご本人の意向に沿って支援している。	○	今後も、意向を確認しながら、ご本人が望む生活ができるように関係者と連絡調整を行っていききたい。				
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時は連絡を取り合っているが、現在はあまり相談するような事例がない。入居相談のあった方の中で、地域包括支援センターに相談が必要なケースは、ご家族に相談するようすすめたりはしている。	○	今後も利用者様に関わることはばかりではなく、在宅介護者からの相談などが寄せられた場合にも、必要に応じて地域包括支援センターにつなげて協働していききたい。				
		必要時は連絡を取り合っているが、現在はあまり相談するような事例がない。入居相談のあった方の中で、地域包括支援センターに相談が必要なケースは、ご家族に相談するようすすめたりはしている。	○	今後も利用者様に関わることはばかりではなく、在宅介護者からの相談などが寄せられた場合にも、必要に応じて地域包括支援センターにつなげて協働していききたい。				
18 43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を確認し、契約した上でホームドクターが居宅療養管理指導を行っている。また、かかりつけ薬局やかかりつけ歯科医とも、必要な時に必要な援助が受けられるように連携を図っている。	○	今後も、ご本人やご家族の希望を確認しながら、より良い援助が受けられるように、関係医療機関と密に連絡をとっていききたい。	利用者及び家族の希望を確認のうえ事業所の協力医をかかりつけ医とし、定期受診のほか月2回は訪問のうえ居宅療養管理指導を行っている。また、看護師による医療連携のほか、歯科医や薬局とも連携を図りながら医療体制の充実に努めている。			
		ご本人やご家族の希望を確認し、契約した上でホームドクターが居宅療養管理指導を行っている。また、かかりつけ薬局やかかりつけ歯科医とも、必要な時に必要な援助が受けられるように連携を図っている。	○	今後も、ご本人やご家族の希望を確認しながら、より良い援助が受けられるように、関係医療機関と密に連絡をとっていききたい。				
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療は専門医で受けられるよう、認知症症状に変化が見られる方については、かかりつけ医と相談の上、専門医を受診している。また、専門医への定期的受診の援助も行っている。専門医より、認知症の理解を深めるための勉強会を開催してもらったりしている。	○	今後も、個人の状態にあわせ治療が受けられるように専門医と連携をとっていききたい。				
		認知症に関する診断や治療は専門医で受けられるよう、認知症症状に変化が見られる方については、かかりつけ医と相談の上、専門医を受診している。また、専門医への定期的受診の援助も行っている。専門医より、認知症の理解を深めるための勉強会を開催してもらったりしている。	○	今後も、個人の状態にあわせ治療が受けられるように専門医と連携をとっていききたい。				
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応可能な看護師（非常勤）を確保しており、週に1度は健康状態を確認し、日常的な健康管理を行っている。急変時や体調不良時は、随時連絡をとりあっている。また、かかりつけ医の担当看護師とも連絡を密とりあい、継続的な健康管理に努めている。	○	看護職と連携を密にとり、健康管理や介護職ができない医療行為の援助等を必要に応じておこなっていく。				
		24時間対応可能な看護師（非常勤）を確保しており、週に1度は健康状態を確認し、日常的な健康管理を行っている。急変時や体調不良時は、随時連絡をとりあっている。また、かかりつけ医の担当看護師とも連絡を密とりあい、継続的な健康管理に努めている。	○	看護職と連携を密にとり、健康管理や介護職ができない医療行為の援助等を必要に応じておこなっていく。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご本人が安心できる関わりについて、病院関係者に情報を提供している。また、入院時から退院に向けた調整や退院後必要な援助について病院関係者と情報交換をしている。	○	今後も、早期退院に向けた調整や退院後の援助について、医療機関と密に情報を交換していきたい。				
		ご本人が安心できる関わりについて、病院関係者に情報を提供している。また、入院時から退院に向けた調整や退院後必要な援助について病院関係者と情報交換をしている。	○	今後も、早期退院に向けた調整や退院後の援助について、医療機関と密に情報を交換していきたい。				
19 47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の「看取りに関する指針」に基づき、重度化・終末期のような状態が考えられる場合はご家族やかかりつけ医等と、密に連絡をとりあい、段階的に繰り返し話し合いをして方針を決めている。また、入居後早い段階から重度化した場合のために他施設への申し込みもしてもらえるよう、ご家族に説明している。	○	今後も、状態の変化に応じて、段階的に話し合いをしていき、ご本人にとって一番良い方法や方針を検討していきたい。	これまで看取りのケースはないが、看取りに関する指針に基づき、必要な場合には家族や協力医と連携を密にしながら対応することを職員間で話し合い、重度化・終末期の対応方針を共有している。			
		事業所の「看取りに関する指針」に基づき、重度化・終末期のような状態が考えられる場合はご家族やかかりつけ医等と、密に連絡をとりあい、段階的に繰り返し話し合いをして方針を決めている。また、入居後早い段階から重度化した場合のために他施設への申し込みもしてもらえるよう、ご家族に説明している。	○	今後も、状態の変化に応じて、段階的に話し合いをしていき、ご本人にとって一番良い方法や方針を検討していきたい。				
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「看取りに関する指針」に基づき、ご本人やご家族のご希望やご意見を最大限尊重しながら、医師・看護師・職員で連携して支援するように努めている。しかし、事業所で、できる限界についても説明し、必要な場合は入院等の検討を行っている。	○	事業所だけの力では、終末期ケアを行うのは困難であるため、今後もご家族も含めたチームで支援できるような体制作りを強化していきたい。また、終末期の支援について、職員の知識の向上も図ってきたい。				
		「看取りに関する指針」に基づき、ご本人やご家族のご希望やご意見を最大限尊重しながら、医師・看護師・職員で連携して支援するように努めている。しかし、事業所で、できる限界についても説明し、必要な場合は入院等の検討を行っている。	○	事業所だけの力では、終末期ケアを行うのは困難であるため、今後もご家族も含めたチームで支援できるような体制作りを強化していきたい。また、終末期の支援について、職員の知識の向上も図ってきたい。				
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り替えによるダメージが最小限となるよう、移り住む次の場所の関係者に情報提供しケアの仕方や関わり方等を引き継いでいる。	○	今後も、退所時に関係者と連絡をとり、ケアの引継ぎを十分に行ってほしい。				
		移り替えによるダメージが最小限となるよう、移り住む次の場所の関係者に情報提供しケアの仕方や関わり方等を引き継いでいる。	○	今後も、退所時に関係者と連絡をとり、ケアの引継ぎを十分に行ってほしい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底	個々人の人格を尊重し、ご本人の能力に応じた言葉かけや対応を行うようにしている。採用時研修にも組み入れ意識統一を図っている。その後はOJTにて職員教育しているが職員の意識や能力に格差あり、まだ改善の必要がある。個人情報の取り扱いに関しては、入居時に説明し地域向け広報誌や事例発表等への写真の掲載等はその都度、了承を得ている。	○	OJTや研修会にて継続的に職員教育を行い、プライバシー保護を徹底できるようにしたい。	職員の年代によって利用者の娘や孫のような信頼関係があり、研修で意識統一を図りながら家族のように自然な声かけや接し方を心がけている。また、個人ファイルは事務室のキャビネットに施錠して保管し、広報誌等への写真掲載についても了承を得るなど個人情報の取り扱いを徹底している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々人の人格を尊重し、ご本人の能力に応じた言葉かけや対応を行うようにしている。採用時研修にも組み入れ意識統一を図っている。その後はOJTにて職員教育しているが職員の意識や能力に格差あり、まだ改善の必要がある。個人情報の取り扱いに関しては、入居時に説明し地域向け広報誌や事例発表等への写真の掲載等はその都度、了承を得ている。	○	OJTや研修会にて継続的に職員教育を行い、プライバシー保護を徹底できるようにしたい。			
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援	個別の関わりを多く持てるよう努め、個々人に合わせ方言や親しみやすい言葉で説明するようにしている。また、自己決定できるよう能力に合わせ選択してもらう方法をとっているが、職員の力量に格差あり、まだ十分にできているとは言えない。	○	個々人の能力を把握し、状態に応じた対応が出来るように研修やOJTにて職員のレベルアップを図りたい。			
		本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別の関わりを多く持てるよう努め、個々人に合わせ方言や親しみやすい言葉で説明するようにしている。また、自己決定できるよう能力に合わせ選択してもらう方法をとっているが、職員の力量に格差あり、まだ十分にできているとは言えない。	○	個々人の能力を把握し、状態に応じた対応が出来るように研修やOJTにて職員のレベルアップを図りたい。			
21	52	○日々のその人らしい暮らし	職員側の都合やペースで業務を進めることがないよう努めている。入居者様主体の生活を考え、個々人の状態や希望に合わせたその人らしい暮らしが出来るように必要時は業務の変更等を行っている。また、自己決定を促し、あらゆる場面でご本人の思いを大事にし、こちらの思いを無理に押し付けないように心がけている。	○	個々人のペースを把握し、無理なくその人らしい生活の援助ができるように、職員の意識統一を図っていききたい。	居室で食事をとる方や、曜日や時間帯に関係なく入りたい時に入浴する方など、利用者一人ひとりの状態や希望に合わせ、必要に応じて業務を変更しながら臨機応変に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合やペースで業務を進めることがないよう努めている。入居者様主体の生活を考え、個々人の状態や希望に合わせたその人らしい暮らしが出来るように必要時は業務の変更等を行っている。また、自己決定を促し、あらゆる場面でご本人の思いを大事にし、こちらの思いを無理に押し付けないように心がけている。	○	個々人のペースを把握し、無理なくその人らしい生活の援助ができるように、職員の意識統一を図っていききたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)		外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援							
53	○身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族にも協力していただき、好みの衣服や化粧品等の準備をお願いしている。理美容院は、地域に数件あり、ご本人の希望や行きつけのお店に出かけられるように援助している。また、希望があれば白髪染めの援助も行っている。	○	衣類を選択する際、これまではこちらで準備してしまっていた方もいるため、ご本人がお一人で決めることが出来なくても、一緒に準備し確認しながら準備したい。		
			ご家族にも協力していただき、好みの衣服や化粧品等の準備をお願いしている。理美容院は、地域に数件あり、ご本人の希望や行きつけのお店に出かけられるように援助している。また、希望があれば白髪染めの援助も行っている。	○	衣類を選択する際、これまではこちらで準備してしまっていた方もいるため、ご本人がお一人で決めることが出来なくても、一緒に準備し確認しながら準備したい。		
22	○食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物時や日常生活の中で食べたい物・作りたい物をうかがったり、季節の食材や利用者様と作った自家農園の野菜を使った献立作りを心がけている。また、能力に応じて調理や片付けに参画してもらっている。しかし、現在は感染症予防のため利用者様の外出を控えるようにしているため、買い物をしながらメニューを決めたりすることが減っている。	○	感染症予防により、人ごみの多いお店への買い物は現在ひかえているが、どのような物を食べたい・作りたいと希望されているか聴取し、それに合わせて食材を購入していきたい。	あえて献立をつくらず、利用者の食べたいものや旬の食材を使ってメニューを考えており、一緒に買い物に出かけたり、下ごしらえを手伝ってもらっている。 また、外食や出前、弁当などの注文もとり、食事を楽しめるよう配慮している。	
			買い物時や日常生活の中で食べたい物・作りたい物をうかがったり、季節の食材や利用者様と作った自家農園の野菜を使った献立作りを心がけている。また、能力に応じて調理や片付けに参画してもらっている。しかし、現在は感染症予防のため利用者様の外出を控えるようにしているため、買い物をしながらメニューを決めたりすることが減っている。	○	感染症予防により、人ごみの多いお店への買い物は現在ひかえているが、どのような物を食べたい・作りたいと希望されているか聴取し、それに合わせて食材を購入していきたい。		
55	○本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつやお酒以外の飲み物は、できるかぎり希望を確認し提供している。しかし、たばこやお酒はご家族や医師から止められている方もおり、必ずしも、ご本人の希望通りにはなっていない。	○	医師からの制限があるものは支援することが困難であるが、それ以外の嗜好を楽しむ援助ができるように検討していきたい。		
			おやつやお酒以外の飲み物は、できるかぎり希望を確認し提供している。しかし、たばこやお酒はご家族や医師から止められている方もおり、必ずしも、ご本人の希望通りにはなっていない。	○	医師からの制限があるものは支援することが困難であるが、それ以外の嗜好を楽しむ援助ができるように検討していきたい。		
56	○気持よい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄チェック表にて個々人の排泄パターンを確認し、サインや残存能力に応じた個別の援助ができるよう努めている。また、誘導時の声掛け、失禁時の対応等、羞恥心やプライバシーに配慮した援助ができるよう、職員教育している。パットを使用する場合でも、個々人に合わせたタイプを検討しながら選択している。外部の排泄の研修にも職員が参加している。	○	今後も、個人の能力に応じた援助や、羞恥心やプライバシーに配慮した援助が常に行えるように、職員の意識統一を図っていきたい。		
			排泄チェック表にて個々人の排泄パターンを確認し、サインや残存能力に応じた個別の援助ができるよう努めている。また、誘導時の声掛け、失禁時の対応等、羞恥心やプライバシーに配慮した援助ができるよう、職員教育している。パットを使用する場合でも、個々人に合わせたタイプを検討しながら選択している。外部の排泄の研修にも職員が参加している。	○	今後も、個人の能力に応じた援助や、羞恥心やプライバシーに配慮した援助が常に行えるように、職員の意識統一を図っていきたい。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
23	57	○入浴を楽しむことができる支援	毎日入浴可能な体制をとっている。バイタルや健康状態を確認しながら入浴の見極めをしている。できる限りご本人が入浴したい時間帯に入っているように入床前に入浴も援助している。また、できる限り、同姓介助を行うように努めている。ご本人の意思を確認し、今後もさらにプライバシーに配慮していく必要がある。	○	今後も随時ご本人が望む入浴の仕方を確認し、羞恥心やプライバシーに配慮した援助が常にできるように、職員の意識統一を図っていききたい。	2日に1回入浴を基本としているが、利用者の希望に応じて毎日でも入浴できる体制をとり、同性介助にも配慮しながら快適な入浴を支援している。 また、年1回程度は温泉に出かける機会をつくり、入浴を楽しめるよう配慮しており、入浴を拒む方もいない。	○	今後の利用者の重度化を見据え、職員による見守りを強化するとともに、天井と床に突っ張り棒のようなつかまる場所をつくるなど、利用者が安心して入浴できるように工夫してほしい。
		曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能な体制をとっている。バイタルや健康状態を確認しながら入浴の見極めをしている。できる限りご本人が入浴したい時間帯に入っているように入床前に入浴も援助している。また、できる限り、同姓介助を行うように努めている。ご本人の意思を確認し、今後もさらにプライバシーに配慮していく必要がある。	○	今後も随時ご本人が望む入浴の仕方を確認し、羞恥心やプライバシーに配慮した援助が常にできるように、職員の意識統一を図っていききたい。			
58	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○安眠や休息の支援	日中の活動を援助し、夜間の眠りにつながるよう意識して援助している。また、作業後や散歩後等は、お茶をすすめる等して、休憩の時間をとってもらっている。また、寝つきの悪さや途中覚醒の頻度が多い方に対しては、あたたかい飲み物を提供したり、ゆったりとした関わりに努めているが、必要時は医師に相談している。	○	一日を通して継続的なケアが行え、夜間の安眠につなげられるよう意識した関わりを今後も継続していききたい。	（斜線あり）		
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を援助し、夜間の眠りにつながるよう意識して援助している。また、作業後や散歩後等は、お茶をすすめる等して、休憩の時間をとってもらっている。また、寝つきの悪さや途中覚醒の頻度が多い方に対しては、あたたかい飲み物を提供したり、ゆったりとした関わりに努めているが、必要時は医師に相談している。	○	一日を通して継続的なケアが行え、夜間の安眠につなげられるよう意識した関わりを今後も継続していききたい。			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	生活歴や職歴から、ご本人がこだわって行っている作業や役割は、継続できるように援助している。役割活動は、習慣となっている方も多し。利用者様同士の話合いをしてもらい、行事や外出の計画をたててもらいと、予定の日まで美容室にでかけて準備するなど準備も楽しみの一つになっている方もいる様子。	○	今後も、アセスメントを十分に行いご本人の能力や気持ちを大事にした関わりをしていききたい。	アセスメントにより利用者のできることを把握し、調理の下ごしらえや食事の後片付けなどの家事のほか、畑づくりや仏壇の水やりも利用者が行っている。 また、歌が好きな方や編み物をやる方、生け花や書道などの趣味活動にも取り組めるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や職歴から、ご本人がこだわって行っている作業や役割は、継続できるように援助している。役割活動は、習慣となっている方も多し。歌の好きな方が多く、エレクトーン演奏の得意な職員もいる事から毎月音楽会を開催している。また、天気の良い日は外で茶話会したり、ドライブや外出するなど、楽しみのある生活を送れるように支援している。	○	今後も、アセスメントを十分に行いご本人の能力や気持ちを大事にした関わりをしていききたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人が所持している方は、買い物時にご自分で支払いされたり、また、職員の付き添い援助のもとで支払いされたりしている。個人の能力に応じた援助を行っている。現在、お金を所持されていない方も、援助の仕方によっては、お金を使うことができないか能力の見極めを随時行っていききたい。	○	現在お金を所持されていない方に対して、ご家族からお預りしているお小遣いにて買い物ができるか、お金の支払い能力がどの程度であるか見極めていきたい。そして、可能であれば小額でもお金を所持できるように、ご家族とも相談していきたい。			
			お金をご本人が所持している方は、買い物時にご自分で支払いされたり、また、職員の付き添い援助のもとで支払いされたりしている。個人の能力に応じた援助を行っている。現在、お金を所持されていない方も、援助の仕方によっては、お金を使うことができないか能力の見極めを随時行っていききたい。	○	現在お金を所持されていない方に対して、ご家族からお預りしているお小遣いにて買い物ができるか、お金の支払い能力がどの程度であるか見極めていきたい。そして、可能であれば小額でもお金を所持できるように、ご家族とも相談していきたい。			
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・畑作業・買い物は、これまで日常的にご本人の希望に合わせて行ってきた。また、一カ月に一回以上は利用者様同士で話し合い出掛ける場所を決め、外出していた。しかし、現在は感染症予防のため人ごみの多い場所への買い物や外食に出掛けることは控えているため、ドライブに出掛けたり、館内で行える楽しみ活動や出前・弁当を注文するなどし気分転換に努めている。	○	今後も、利用者様の希望を聞きながら感染症などの状況が許せば、外出支援を再開していきたい。	事業所周辺の散歩や買い物などで日常的に外出しているほか、外出先を利用者同士で決めて花見やドライブ、外食に出かけるなど、外出の機会づくりに努めている。		
			散歩・畑作業・日光浴・買い物は、これまで日常的にご本人の希望に合わせて行ってきた。しかし、現在は感染症予防のため人ごみの多い場所への買い物や外食に出掛けることは控えているため、ドライブに出掛けたり、館内で行える楽しみ活動の実施や弁当を注文するなどし気分転換に努めている。	○	今後も、利用者様の希望を聞きながら感染症などの状況が許せば、外出支援を再開していきたい。			
62		一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域のお祭りや運動会、学校の行事、また、季節の花の観賞、温泉にでかける等、利用者様の希望を聞きながら皆ででかけている。ご家族とは、お墓参りや買い物、食事等にでかけられたりしている。個別的な支援については十分とは言えない。	○	希望の確認が難しい方にも、馴染みの場所や思い出の場所等を確認し、でかけられるように援助していきたい。			
			地域のお祭りや運動会、学校の行事、また、季節の花の観賞等、外出している。ご家族とは、お墓参りや買い物、食事等にでかけられたりしている。しかし、個別的な支援については十分とは言えない。	○	希望の確認が難しい方にも、馴染みの場所や思い出の場所等を確認し、でかけられるように援助していきたい。			
63		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により、かけることは自由である。個人の能力により、必要な援助を行っている。しかし、希望されない方もおり、個人によって偏りがある。手紙のやりとりはあまりないが、年賀状はご家族や知人に出せるように援助している。	○	ご本人から訴えがなくても、時折ご家族などに連絡をとりたいと思っていないか確認し、必要時援助していきたい。			
			電話は希望により、かけることは自由である。個人の能力により、必要な援助を行っている。しかし、希望されない方もおり、個人によって偏りがある。手紙のやりとりはあまりないが、年賀状はご家族や知人に出せるように援助している。	○	ご本人から訴えがなくても、時折ご家族などに連絡をとりたいと思っていないか確認し、必要時援助していきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎年接遇マナー研修を開催している。また、ご本人や面会の方が、一緒にゆっくりと過ごしていただけるように、居室にお茶の道具を用意したりしている。	○	気軽に訪問していただけるような雰囲気作りやおもてなしが自然にできるように今後も接遇マナーの研修を継続していく。			
			毎年接遇マナー研修を開催している。また、ご本人や面会の方が、一緒にゆっくりと過ごしていただけるように、居室にお茶の道具を用意したりしている。	○	気軽に訪問していただけるような雰囲気作りやおもてなしが自然にできるように今後も接遇マナーの研修を継続していく。			
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時研修や社内研修にて、職員の意識統一を図っている。身体拘束の定義について、全職員が正しい知識を身につけ、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。今後も、研修会やマニュアルの確認にて繰り返し職員に意識付けする取り組みが必要。	○	身体拘束の定義や知識を、全職員に定着させるため、研修会やマニュアルの確認を継続的に行っていきたい。			
			採用時研修や社内研修にて、職員の意識統一を図っている。身体拘束の定義について、全職員が正しい知識を身につけ、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。今後も、研修会やマニュアルの確認にて繰り返し職員に意識付けする取り組みが必要。	○	身体拘束の定義や知識を、全職員に定着させるため、研修会やマニュアルの確認を継続的に行っていきたい。			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	安全確認のため、玄関にベルや鳥の鳴き声のセンサーを設置しているが、日中は玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるようになっている。居室には鍵の設置はない。	○	今後も鍵をかけることの弊害を理解して、現在の取り組みを継続していきたい。		日中は玄関に鍵をかけず、ベルやセンサーを設置して出入りを把握し、職員による見守りを徹底している。	
			安全確認のため、玄関にベルを設置しているが、日中は玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるようになっている。居室には鍵の設置はない。	○	今後も鍵をかけることの弊害を理解して、現在の取り組みを継続していきたい。		また、地域住民からの声かけや見守りの協力を得ているほか、警察や消防にも利用者の情報を伝えて安全確保の協力を依頼している。	
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、職員間で連携をとり、居間兼食堂に職員の誰がいるようにしている。共有スペース内での状態把握はできているが、職員がそれぞれ個別の対応を行っている場合は、他者に配慮が行き届かない場合もあり注意が必要な時もある。	○	職員間で声を掛け合い連携を徹底していく。			
			日中は、職員間で連携をとり、居間兼食堂に職員の誰がいるようにしている。共有スペース内での状態把握はできているが、職員がそれぞれ個別の対応を行っている場合は、他者に配慮が行き届かない場合もあり注意が必要な時もある。	○	職員間で声を掛け合い連携を徹底していく。			
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の生活に必要な物は、自立支援を考え、必要な場所に必要な物を設置するように努めている。洗剤や危険な物は、鍵のかかる場所で保管している。異食等の危険がある方には、見守りや付き添い援助をさせてもらっている。	○	今後も、自立支援の援助と安全に生活できる援助の工夫を考えていきたい。			
			利用者様の生活に必要な物は、自立支援を考え、必要な場所に必要な物を設置するように努めている。洗剤や刃物など危険な物は、鍵のかかる場所で保管している。	○	今後も、自立支援の援助と安全に生活できる援助の工夫を考えていきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）		外部評価				
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	採用時研修に組み入れている。アセスメントし個々の心身の状態から、考えられるリスクを割り出し、事前に予防に努めるようにしている。また、ひやりはっと報告を小さな事でもあげ、情報の共有と未然に事故につながらないような取り組みを検討するようにしている。	○	リスクマネジメントについて知識を深め、事故を未然に防止していく取り組みを今後も行っていく。				
			採用時研修に組み入れている。アセスメントし個々の心身の状態から、考えられるリスクを割り出し、事前に予防に努めるようにしている。また、ひやりはっと報告を小さな事でもあげ、情報の共有と未然に事故につながらないような取り組みを検討するようにしている。	○	リスクマネジメントについて知識を深め、事故を未然に防止していく取り組みを今後も行っていく。				
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防署に依頼し、普通救命講習を受けている。また、採用時研修に急変時の対応を組み込んでいる。急変時や事故発生時に速やかに、また、適切に対応できるように、繰り返し訓練や研修を行う必要がある。	○	今後も定期的に訓練や研修の機会を作り、実際に行う場合には、速やかに適切に対応できるように職員教育していく。				
			消防署に依頼し、普通救命講習を受けている。また、採用時研修に急変時の対応を組み込んでいる。急変時や事故発生時に速やかに、また、適切に対応できるように、繰り返し訓練や研修を行う必要がある。	○	今後も定期的に訓練や研修の機会を作り、実際に行う場合には、速やかに適切に対応できるように職員教育していく。				
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的開催している。運営推進会議などで、災害時の協力をお願いし、緊急連絡網に、ご近所の方も加わってくれている。また、町内青年部の方に緊急時の避難誘導時に協力していただけるように依頼し、建物の構造や避難口の確認、利用者様の特徴等を伝えている。	○	今後ご近所の方に、協力を呼びかけていきたい。また、今後は、土・日曜日に避難訓練を計画して町内の方に参加していただけるように検討している。	○	○	○	○
			避難訓練は定期的開催している。運営推進会議などで、災害時の協力をお願いし、緊急連絡網に、ご近所の方も加わってくれている。また、町内青年部の方に緊急時の避難誘導時に協力していただけるように依頼し、建物の構造や避難口の確認、利用者様の特徴等を伝えている。	○	今後ご近所の方に、協力を呼びかけていきたい。また、今後は、土・日曜日に避難訓練を計画して町内の方に参加していただけるように検討している。				
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には、環境の変化により起こり得るリスクについて説明している。また、アセスメントにより心身の状態から起こり得るリスクを割り出し、状態の変化に応じて対応策や予防策についてご家族と話し合いを行っている。	○	リスクに対して、必要以上に制限することなく対応策や予防策を講じ、安心・安全に生活していただけるように今後も工夫していきたい。				
			入居時には、環境の変化により起こり得るリスクについて説明している。また、アセスメントにより心身の状態から起こり得るリスクを割り出し、状態の変化に応じて対応策や予防策についてご家族と話し合いを行っている。	○	リスクに対して、必要以上に制限することなく対応策や予防策を講じ、安心・安全に生活していただけるように今後も工夫していきたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人の病歴の把握や、高齢者のなりやすい病気とその症状、バイタル等については採用時研修や随時カンファレンスを開催し、早期発見につながるよう取り組んでいる。しかし、適切に訴えができず痛みの強弱や部位の確認が難しい場合もあるため、医師や看護師と連携し対応している。緊急時の連絡の体制も整えている。	○	認知症の方の場合、症状の把握が難しい場合もあるため、言動観察の強化と、医師や看護師との連携を今後も強化していきたい。また、アセスメントや研修会の開催等にて、職員が異常を異常と判断できる知識の向上に努めていきたい。				
		個人の病歴の把握や、高齢者のなりやすい病気とその症状、バイタル等については採用時研修や随時カンファレンスを開催し、早期発見につながるよう取り組んでいる。しかし、適切に訴えができず痛みの強弱や部位の確認が難しい場合もあるため、医師や看護師と連携し対応している。緊急時の連絡の体制も整えている。	○	認知症の方の場合、症状の把握が難しい場合もあるため、言動観察の強化と、医師や看護師との連携を今後も強化していきたい。また、アセスメントや研修会の開催等にて、職員が異常を異常と判断できる知識の向上に努めていきたい。				
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師と連携を図り、服薬支援できるように努めている。外部の研修会への参加や、毎年ではないが社内研修会を開催している。一包化や投薬カレンダーを利用し、飲み忘れや投薬ミスがないよう管理している。用法・用量・副作用の可能性等、薬について職員が確認できるように個々人の情報をファイリングしているが、全職員が熟知しているとは言い切れない。	○	今後も、薬について職員の知識の向上と、医師や薬剤師との連携を強化していきたい。また、研修会の開催も継続していきたい。				
		医師や薬剤師と連携を図り、服薬支援できるように努めている。外部の研修会への参加や、毎年ではないが社内研修会を開催している。一包化や投薬カレンダーを利用し、飲み忘れや投薬ミスがないよう管理している。用法・用量・副作用の可能性等、薬について職員が確認できるように個々人の情報をファイリングしているが、全職員が熟知しているとは言い切れない。	○	今後も、薬について職員の知識の向上と、医師や薬剤師との連携を強化していきたい。また、研修会の開催も継続していきたい。				
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一般的な便秘の原因とその影響については、研修会を開催し、職員教育している。個々人によって便秘の原因は、多様であり必要な援助ができるようアセスメントしている。適度な運動・食べ物の工夫等、予防的な関わりや、下剤や整腸剤の調整援助を行っているが、便秘傾向の方もいるため今後も検討が必要である。	○	個人に合わせた援助ができるように、かかりつけ医や看護師とも連携し、原因の把握と予防に努めていきたい。また、職員の知識の向上に努めていきたい。				
		一般的な便秘の原因とその影響については、研修会を開催し、職員教育している。個々人によって便秘の原因は、多様であり必要な援助ができるようアセスメントしている。適度な運動・食べ物の工夫等、予防的な関わりや、下剤や整腸剤の調整援助を行っているが、便秘傾向の方もいるため今後も検討が必要である。	○	個人に合わせた援助ができるように、かかりつけ医や看護師とも連携し、原因の把握と予防に努めていきたい。また、職員の知識の向上に努めていきたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの必要性については、採用時研修に組み込んでいる。毎食後の歯磨きやうがい習慣的に定着しており、個人の状態に合わせた援助を行っている。口腔内トラブルの観察のポイント等は、歯科衛生士の資格を持つ職員に指導してもらっている。	○	今後も、歯科衛生士の指導のもと口腔内ケアについての知識を深めていけるようにしていきたい。				
		口腔ケアの必要性については、採用時研修に組み込んでいる。毎食後の歯磨きやうがい習慣的に定着しており、個人の状態に合わせた援助を行っている。	○	今後も、事業所職員の歯科衛生士の指導のもと口腔内ケアについての知識を深めていけるようにしていきたい。				
28 77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の把握はしている。おおよその目安として個別に水分摂取必要量を計算し、一日を通じて必要量が摂取できるように取組んでいる。栄養バランスについては、なるべく多くの食材を使用するように心がけ、自分たちが作る食事を写真にとって振り返ってみたりしている。また、外部の施設の給食課を見学し、嚥下障害の方への食事提供の仕方を学習してきている。また、外部より栄養士を招き研修会を開催し、職員の意識統一を行っている。	○	今後も、個々人の咀嚼・嚥下機能や習慣・嗜好等に配慮した食事提供が出来るように、研修会の開催や日々の食事を振り返り、検討を繰り返していきたい。	管理日誌に食事や午前午後の水分摂取量を記録し、嚥下障害のある方に対しては他施設の実践を参考にしながら適切な食事提供に努めている。 また、献立を実施表に記録して写真にも収め、栄養士資格をもつ職員がチェックして栄養バランスに配慮しているほか、他施設の栄養士を招いて栄養管理について研修している。			
		食事や水分摂取量の把握はしている。おおよその目安として個別に水分摂取必要量を計算し、一日を通じて必要量が摂取できるように取組んでいる。栄養バランスについては、なるべく多くの食材を使用するように心がけ、自分たちが作る食事を写真にとって振り返ってみたりしている。また、外部の施設の給食課を見学し、嚥下障害の方への食事提供の仕方を学習してきている。また、外部より栄養士を招き研修会を開催し、職員の意識統一を行っている。	○	今後も、個々人の咀嚼・嚥下機能や習慣・嗜好等に配慮した食事提供が出来るように、研修会の開催や日々の食事を振り返り、検討を繰り返していきたい。				
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防委員会があり、予防や対応のマニュアルがある。採用時研修にも組み込んでいる。また、ノロウイルスやインフルエンザについても流行時期前に毎年研修会を開催し、職員の意識統一を図っている。利用者様・職員・来客者の手洗いうがいを励行している。結核についても保健所職員に依頼し、研修会を開催した。	○	マニュアルの徹底・流行時期の確認をしながら、予防の仕方については情報収集に努め感染予防強化をしていきたい。				
		感染予防委員会があり、予防や対応のマニュアルがある。採用時研修にも組み込んでいる。また、ノロウイルスやインフルエンザについても流行時期前に毎年研修会を開催し、職員の意識統一を図っている。利用者様・職員・来客者の手洗いうがいを励行している。結核についても保健所職員に依頼し、研修会を開催した。	○	マニュアルの徹底・流行時期の確認をしながら、予防の仕方については情報収集に努め感染予防強化をしていきたい。				
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	各係りが責任を持ち衛生管理マニュアルを作成し、マニュアルに沿って調理用具や食器等の衛生管理を行っている。食材は、できる限り国産品を使用し、安全に安心して食べていただけるように努力している。	○	今後も、調理用具・食器消毒の徹底が行えるようにマニュアルの見直しや作成を必要時行っていきたい。情報収集に努め、安全な食材を提供できるように努めていきたい。				
		各係りが責任を持ち衛生管理マニュアルを作成し、マニュアルに沿って調理用具や食器等の衛生管理を行っている。食材は、できる限り国産品を使用し、安全に安心して食べていただけるように努力している。	○	今後も、調理用具・食器消毒の徹底が行えるようにマニュアルの見直しや作成を必要時行っていきたい。情報収集に努め、安全な食材を提供できるように努めていきたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）			外部評価		
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫	建物の立地上、駐車場が玄関の前にあり威圧感を与えている可能性もあるが、花壇やプランターに植物を植えたり、ベンチやテーブルを設置し、利用者様が外で茶話会できるようにするなどし玄関まわりの環境には配慮している。	○	今後も、玄関まわりをお花で飾る等、温かみのあるイメージとなるように努めていきたい。				
		建物の立地上、駐車場が玄関の前にあり威圧感を与えている可能性もあるが、花壇やプランターに植物を植えたり、ベンチやテーブルを設置し、利用者様が外で茶話会できるようにするなどし玄関まわりの環境には配慮している。	○	今後も、玄関まわりをお花で飾る等、温かみのあるイメージとなるように努めていきたい。				
29 81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるように、季節感のある物や利用者様に馴染みのある物を用意するようにしている。日射しや照明の調整、温度・湿度調整、換気は時間を決めてチェックする体制をとり、利用者様が心地良く生活できるように環境整備を意識して行うようにしている。必要時、カンファレンスを行い意識統一を図っている。また、職員も環境の一つである事をOJTしているが、職員の意識に格差がある。	○	職員へのOJTを継続して行い、常に意識して環境整備が出来るようにしていきたい。	ホールにはソファのほかに古い茶箆筒や仏壇があり、利用者の書道の作品や生け花などを飾り家庭的な雰囲気がある。 また、事業所内は不快な音や臭いもなく、温度や湿度にも気を配り居心地の良い共用空間づくりに努めている。			
		家庭的な雰囲気になるように、季節感のある物や利用者様に馴染みのある物を用意するようにしている。日射しや照明の調整、温度・湿度調整、換気は時間を決めてチェックする体制をとり、利用者様が心地良く生活できるように環境整備を意識して行うようにしている。必要時、カンファレンスを行い意識統一を図っている。また、職員も環境の一つである事をOJTしているが、職員の意識に格差がある。	○	職員へのOJTを継続して行い、常に意識して環境整備が出来るようにしていきたい。				
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・玄関・窓際・ベランダに椅子を設置し、独りでのんびり過ごしたり、気の合う方同士で会話ができるようにしている。しかし、構造上、共有空間がオープンスペースであり、他者の目を気にせずに一人になれる空間が少ない。利用者様の希望や状況によってソファの配置変えや食事席の変更等はしているが今後も、検討が必要である。	○	利用者様の希望や状況に応じて、ソファや食事席の変更等はしているが、今後も、継続的に状況进行评估し、検討していきたい。				
		居間・玄関・窓際に椅子を設置し、独りでのんびり過ごしたり、気の合う方同士で会話ができるようにしている。しかし、構造上、共有空間がオープンスペースであり、他者の目を気にせずに一人になれる空間が少ない。利用者様の希望や状況によってソファの配置変えや食事席の変更等はしているが今後も、検討が必要である。	○	利用者様の希望や状況に応じて、ソファや食事席の変更等はしているが、今後も、継続的に状況进行评估し、検討していきたい。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価 (上段:1ユニット 下段:2ユニット)			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮	使い慣れたものや好みのもの、ご本人のこだわりがあつて使用しているもの等を持ってきていただけるよう、必要性を説明しお願いしている。できる限り、自宅と同じような配置になるよう配慮したり、居室はフローリングであるが、畳を敷いたりジュータンを敷いたりして、個々人の生活スタイルをできる限り継続できるようにしている。	○	ご本人が居心地良く過ごせるように、今後もご家族と協力しながら環境を整えていきたい。	自宅で使い慣れたタンスやテーブルなど馴染みの品を多く持ち込み、家族の写真など利用者一人ひとりの装飾により個性ある居室空間をつくらせている。 また、ベットと布団は選べることができ、希望に応じて畳やカーペットを敷き、家族の宿泊にも対応している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもの、ご本人のこだわりがあつて使用しているもの等を持ってきていただけるよう、必要性を説明しお願いしている。できる限り、自宅と同じような配置になるよう配慮したり、居室はフローリングであるが、畳を敷いたりジュータンを敷いたりして、個々人の生活スタイルをできる限り継続できるようにしている。	○	ご本人が居心地良く過ごせるように、今後もご家族と協力しながら環境を整えていきたい。			
84		○換気・空調の配慮	感染症予防のためにも、定時に、温度・室温の確認と換気を行っている。利用者様からの訴えや希望を聞きながら、こまめに冷暖房の調整や換気を行うようにしている。また、トイレや居室の気になるにおいては、消臭剤の設置や消臭スプレーも使用している。	○	利用者様によって感じ方が違ったりするため、衣類で調整するなどの援助もしながら、館内の温度調節をしていきたい。			
		気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症予防のためにも、定時に、温度・室温の確認と換気を行っている。利用者様からの訴えや希望を聞きながら、こまめに冷暖房の調整や換気を行うようにしている。また、トイレや居室の気になるにおいては、消臭剤の設置や消臭スプレーも使用している。	○	利用者様によって感じ方が違ったりするため、衣類で調整するなどの援助もしながら、館内の温度調節をしていきたい。			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり	館内は玄関と浴槽以外は段差はないが、利用者様の身体機能に応じて手すりを新しく設置するなどしている。しかし、浴槽の大きさや深さ等、使い勝手の悪い箇所もある。補助具の使用やマンパワーで補っている。	○	今後も利用者様の身体状況の変化にあわせ、状態に応じて必要な設備の工夫や設置、職員の関わり方を検討していきたい。			
		建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は玄関と浴槽以外は段差はないが、利用者様の身体機能に応じて手すりを新しく設置するなどしている。しかし、浴槽の大きさや深さ等、使い勝手の悪い箇所もある。補助具の使用やマンパワーで補っている。	○	今後も利用者様の身体状況の変化にあわせ、状態に応じて必要な設備の工夫や設置、職員の関わり方を検討していきたい。			
86		○わかる力を活かした環境づくり	センター方式シートにてアセスメントし個人に合わせて必要な援助が提供できるように援助している。能力の引き出し、能力の維持ができるよう、できるかぎり自立した生活が送れるように努めている。	○	今後も、アセスメントを十分に行い、能力の引き出し方や能力に応じた関わりについて、職員のレベルアップを図っていきたい。			
		一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式シートにてアセスメントし個人に合わせて必要な援助が提供できるように援助している。能力の引き出し、能力の維持ができるよう、できるかぎり自立した生活が送れるように努めている。	○	今後も、アセスメントを十分に行い、能力の引き出し方や能力に応じた関わりについて、職員のレベルアップを図っていきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価（上段:1ユニット 下段:2ユニット）		外部評価			
			取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
87	○建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターや畑作りをしている。ベランダから畑を眺める事ができ、水やりや草取り、収穫などを利用者に教えていただきながら職員も一緒に行っている。また、ベランダには物干し竿もあり、できる方には洗濯物を干してもらっている。身体機能的に畑での作業が難しい方でも、ベランダにて日光浴をしたり植物を植えていただいたりしている。	○	今後も利用者様の楽しみや役割を援助できるように、戸外の環境整備や道具の設置など工夫していきたい。			
			プランターや畑作り、花壇作りをしている。水やりや草取り、収穫などを利用者に教えていただきながら職員も一緒に行っている。利用者様の中には、毎日の水やりが習慣になっている方もいる。また、ベランダには物干し竿を設置している。	○	今後も利用者様の楽しみや役割を援助できるように、戸外の環境整備や道具の設置など工夫していきたい。			

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと) ①：1ユニット(すまいる館) ②：2ユニット(ほほえみ館)	
V. サービスの成果に関する項目		①	②
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

※地域との関わり：利用者様が地域の一員として、地域と関わりを持ち地域の中で安心して楽しく生活できるような取り組みに力を入れている。一軒の家として、町内会に入会し違和感なく地域に溶け込めるように、地域行事への積極的な参加や町内行事準備から職員を参加させてもらったり、利用者様と町内のゴミ拾いをしたりしている。また、町内児童館の鍵の管理も事業所でさせてもらっている。地域の小中学校との関わりも大事にしている。

※職員教育：新人職員に対しては、採用時研修やプリセプター制により継続的に教育をするシステムを構築している。また、年間の社内研修計画に基づいて、社内職員が講師となり月に2回社内研修会を開催している。職員は、半年毎に目標を設定しており、目標達成に向けて必要な知識を習得するため社内研修に参加したり、自己学習・外部研修への参加を行っている。社内研修も、時折、社外から専門職の講師を招き専門的知識の習得に努めている。外部の研修にも、職員の能力や職種に応じて積極的に研修参加させるようにしている。

※その人らしさの支援：センター方式シートを活用しアセスメントを行っている。ご本人への直接的な聴き取りのほかに、普段の生活の様子や言動をもとにアセスメントを行っている。また、言葉でうまく表現できない方についても、その方の気持ちに寄り添ったケアが実践できるよう目指している。できるかぎり、生きいきと楽しく生活していただけるように、能力の引き出しや能力維持・向上等の個別支援の充実を目指している。

※利用者様同士の家族会議開催：職員が行事の計画や準備を行うのではなく、利用者様本位の計画となるように、利用者様同士で話し合いをして決めていただいている。また、行事計画ばかりでなく、日々のケアや暮らしについての要望等も、話しあっていただき要望や意見を反映できるように取り組んでいる。

※地域との関わり：利用者様が地域の一員として、地域と関わりを持ち地域の中で安心して楽しく生活できるような取り組みに力を入れている。一軒の家として、町内会に入会し違和感なく地域に溶け込めるように、地域行事への積極的な参加や町内行事準備から職員を参加させてもらったり、利用者様と町内のゴミ拾いをしたりしている。また、町内児童館の鍵の管理も事業所でさせてもらっている。地域の小中学校との関わりも大事にしている。

※職員教育：新人職員に対しては、採用時研修やプリセプター制により継続的に教育をするシステムを構築している。また、年間の社内研修計画に基づいて、社内職員が講師となり月に2回社内研修会を開催している。職員は、半年毎に目標を設定しており、目標達成に向けて必要な知識を習得するため社内研修に参加したり、自己学習・外部研修への参加を行っている。社内研修も、時折、社外から専門職の講師を招き専門的知識の習得に努めている。外部の研修にも、職員の能力や職種に応じて積極的に研修参加させるようにしている。

※その人らしさの支援：センター方式シートを活用しアセスメントを行っている。ご本人への直接的な聴き取りのほかに、普段の生活の様子や言動をもとにアセスメントを行っている。また、言葉でうまく表現できない方についても、その方の気持ちに寄り添ったケアが実践できるよう目指している。できるかぎり、生きいきと楽しく生活できるように、能力の引き出しや能力維持・向上等の個別支援の充実を目指している。

※音楽会：歌の好きな利用者様が多く、エレクトーン演奏の得意な職員もいることから、毎月1回定期的に音楽会を開催している。利用者様の中には、外出をあまり好まれない方もいらっしゃるが、音楽会は楽しみにされている。また、他者の前で自慢の歌声を披露される利用者様もおり、自信につながっている様子。